

平成 14 年度 第 3 回宇都宮市社会福祉審議会  
障害者福祉専門分科会議事録

日時：平成 15 年 2 月 14 日（金）

午後 1 時 30 分～

場所：総合福祉センター

9 A 会議室

出席者

審議会委員：麦倉分科会長、外口職務代理者、寺内、真壁、螺良、深澤、中田、加藤委員

事務局：高齢障害福祉課 岡地課長、手塚課長補佐、大音企画係長、山中保健予防課 縄課長、小林精神保健難病係長

議事

1 開会 大音係長

2 あいさつ 麦倉会長 「あいさつ要旨」に基づきあいさつ

3 議事

( 1 ) 数値目標の設定について

手塚補佐 資料に基づき説明

質疑応答

外口委員 一番最初の障害者の就労を支援する機関への登録について、この障害者の就労を支援する機関とは具体的に何か。

手塚補佐 現時点ではまだないが、新年度において、この事業名で社会福祉法人へ委託する予定。  
新たに設置する。

岡地課長 国では法定雇用率が 1.8%であるが、なかなか国だけにまかせては雇用支援は難しい。

市として、できる範囲で新たに取組んでいこうというもの。

シルバー人材センターを例としていて申し訳ないが、こういう形で登録して、斡旋をしながら、一般就労に向けていく、そのための中途的な場所としては、店舗の事業などを考えている。

一步一步進めていきたい。

中田委員 目標値は「19 年度にこうする」というものであるが、段階的にやっていくものは示すのか。

岡地課長 基本的には、国・県、市の計画も含め最初と最後の目標を示すスタイル。内部的には実行計画的なもので見込みややり方、裏づけを持っているが、財源のこともあるので対外的に公表しながら担保するのは難しいため、一つの目標値を掲げ、段階的に進めていきたい。

- 中田委員 5年経てば、事務局の人間も変わり、「忘れてしまう」ということになる危険性もある。  
ある程度はステップを踏んでいかないとダメなのではないか。
- 岡地課長 内部的には年次計画を持つように考えている。
- 中田委員 我々も事務局もメンバーは変わるのだから、その辺を示してもらおうと一番いい。
- 手塚補佐 各年度の実績については審議会に報告を行う。
- 真壁委員 (資料2)3ページに数字が変わらないものがあるが、どのように見るのか。  
どういうことでこの目標としたのか。
- 手塚補佐 精神障害者のショートステイは、ベッドは今のままで対応が可能であり、使用者数を増やしていこうというもの。  
身体障害者更生施設は、在宅を中心として考えていきたいが、どうしても必要な者への受け皿は現在の体制で対応は可能であると考える。
- 真壁委員 3名から15名へ増えて、ベッドは大丈夫なのか。  
心配ではある。

(2) 宇都宮市障害者福祉プラン(案)について

手塚補佐 資料に基づき説明

質疑応答

- 加藤委員 (療育計画の新規事業)生活支援事業の職員の待遇はどうか。  
また、どういう仕事をやるのか。
- 手塚補佐 1か所は泉が丘ふれあいプラザで実施している。  
委託法人は「飛山の里福祉会」。  
中身は障害を持つ児童などを対象として、生活支援の相談、幼稚園・保育園を訪問しての障害児への接し方の指導、施設へ来ることができない方に対する訪問指導。  
職員は社会福祉法人に属しているが、市の委託なので公的な立場。  
待遇は法人の待遇の中で位置付けられるので、(給料を)いくら払えという指導はやっていない。

(3) 社会福祉審議会からの提言書(案)について

手塚補佐 資料に基づき説明

質疑応答

- 中田委員 資料の3ページ目の(2)(3)は一般的だが、(1)は「整備を図る」となっており、表現も違うが、今までにないものを作るのか。
- 岡地課長 ないものを作る。  
「かすが園」や「若葉園」、「ことばの相談室」など現在あるものの統合化を図りながら、相談機能などプラスアルファを図る。
- 中田委員 具体的なものは何もないか。
- 岡地課長 15年度に用地取得、16年度に実施設計、17～18年度に整備したい。

中田委員 わかりました。

加藤委員 一般の人へのPRがやっとでできた感じだが、ちょっとした心配りをすれば、障害者も普通に暮らせる。  
少し弱い気がする。  
「福祉まつり」も関係者ばかり。  
そういうところに一般の人が来るようにして欲しい。

麦倉会長 学校教育に触れたこともあったと思うが。

手塚補佐 交流が必要かと思う。

加藤委員 そうである。  
養護学校ができたので、地域性がなくなっている。  
養護学校に通うと、家に帰ってきてから知り合いがいなくなる。

手塚補佐 審議会での認識はあるが。

麦倉会長 3ページの(5)の表記の方法だが、「物理的な障壁を取り除くまちづくりを進めるとともに、障害と障害者に対する無理解や偏見の除去」という部分が後ろ向きのもになっている。  
前向きなものとして方がいいと思う。

岡地課長 「バリアフリーを推進する」や「あらゆる場をとらえ、交流の促進を図り」という表現にする。

麦倉会長 「除く」より「推進する」が好ましい。

中田委員 教育との連携をよく取ることが必要。  
しょっちゅう見慣れていけば、見慣れないことはなくなる。

岡地課長 表記を入れ込むようにする。

麦倉会長 頭で分かっているけど、できないことは多い。  
こうした状況を変えていくためにも、ハードだけでなく、ソフトの部分が大切である。

手塚補佐 よく分かるようにしたい。

外口委員 「福祉」という言葉で、一般の人は「関係ない」と思ってしまう。  
すべての人を対象とするようにしていくことが必要である。

寺内委員 福祉まつりも民生委員で参加しているのは障害福祉部会だけ。  
今は全体に呼びかけしていない。  
全体に呼びかけてもらえれば、より出てくる。  
一般の人の前に、民生委員がそういう状況である。  
全部に呼びかけるようにしていただければと思う。  
関係者ばかりでなく、一般の方がでなくてはダメ。  
学校にも呼びかけていただきたい。

岡地課長 交流の場を設けなければならない。  
障害者と健常者が分かり合える場づくりを進めていきたい。

真壁委員 「まつり」の場所、足の問題も考えて欲しい。  
「つどい」は表彰だけですごく時間がかかる。  
「どこまでどうしろ」とは言えないが、セレモニーを省略し、一般の方を  
対象とした交流などをしないといけないと思う。  
その方が福祉のためになるのではないか。